



特産品化を目指して岩ガキの試食会

町の新たな特産品の一つに

8月24日、レジャーランド太陽の里で、本町の新たな特産品として試験養殖を行っている岩ガキの試食会が行われ、川添町長をはじめ関係者らが出席しました。

町内では、すでに2業者が岩ガキの養殖、販売を行っています。町でも新たな長島の特産品とするため3年前から町水産種苗センターなどで岩ガキの養殖について試験養殖を進めていて、来年度中に販売を始めるための体制を支援していきます。

この日出席した関係者らは「身が大きくておいしい」など意見が出され好評で、今後の特産品化に向け期待が高まっています。



↑身の大きい岩ガキを使った料理



日本語教室Nサロンで防災講座

安心できる生活のために

町では在住外国人の日本語学習・地域との交流を目的とした日本語教室「Nサロン」を開講し、生活に根ざしたものや季節感のあるものをテーマに日本語の学習を行っています。

8月29日、町文化ホールで東分遣所職員らを講師に招いて防災講座を行い、火災や救急時の通報の仕方や、心肺蘇生法について模擬練習を実施し、参加者は懸命に取り組んでいました。

参加者は「家族に緊急の事態が起きたときに、連絡の仕方が分からずに困った経験があった。今回の講座は生活するうえでとても助かる」と話していました。



↑心肺蘇生法を習う参加者



ジュニアアスリートに本町から2人が選出

鹿児島国体での活躍を誓う

鹿児島県は、2020年開催予定の鹿児島国体で活躍が見込まれる県内の小中学生475人を「チームかごしま」ジュニアアスリートとして認定しました。

本町からは柔道競技で、竹山真平さん(長島中・3年)と小島大尚さん(川床中・3年)が認定され、8月29日、川添町長に報告のため来庁しました。

ジュニアアスリート認定の報告をした2人。竹山真平さんは「選ばれたからには、練習を頑張つて、国体では鹿児島県に貢献できるように頑張りたい」、小島大尚さんは「目標ができたのでそれに向けて練習を頑張りたい」とそれぞれ抱負を述べました。



↑活躍を誓う小島さん(写真左から2人目)と竹山さん(写真右)